

# 令和5年度

## 福祉教育推進事業事例集



～市内の学校の取りくみから～

社会福祉法人 各務原市社会福祉協議会

〒504-0912

各務原市那加桜町2-163 総合福祉会館2階

TEL 058-383-7610

FAX 058-382-3233

## 各務原市社会福祉協議会とは

「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として明記された公共性・公益性の高い社会福祉法人です。誰もが安心して暮らすことのできる福祉のまちづくりの推進するために自治会連合会や民生委員児童委員、ボランティア団体・障がい者団体などと連携しながら地域の福祉問題の解決に向けた取り組みをしています。

社協の職員が、学校でお話させていただく際には、福祉とは「ふだんの 暮らしを しあわせに」と説明をしています。普段の暮らしから皆さんが幸せに暮らすことを支援することが社協の目的です。

## 福祉教育推進事業とは

普段の生活や学習の中で「ふくし」を学ぶことを福祉教育といいます。

講話や体験、地域の方とのつながりを通して「ふくし」を学び、日頃見過ごしてしまうくらしの問題に気づき、自分にできることを考える機会になってほしいと考えています。

各務原市社協では、福祉教育推進事業として職員の派遣、講師の調整、体験グッズの貸出などを行っています。また、この福祉教育推進事業補助金は、住民の皆さまからのご協力による赤い羽根共同募金を財源としています。

## 本事例集について

各務原市内で福祉教育推進事業に取り組んでいただいた中からさまざまな活動を紹介するものです。「聞く（学ぶ）」「体験する」「地域とのふれあい」「つながる」の4つに分類して紹介しています。

「福祉教育では何をすればいい？」という時、参考にしていただけたらと思います。

# 聞く (学ぶ)

社協職員、障がいをもっている方、支援する方などの話を聞きました。当事者から話を聞くことで生徒の皆さんの心に響いています。

本校では、4年生が総合的な学習の時間に「福祉」について学習しています。  
◎福祉って何？ (6月6日)



「福祉」という漢字は、どちらも「しあわせ」という意味があることを教えていただきました。「誰もが」幸せになる権利があることを知り、自分だけではなく、周りの誰もが幸せにあることが「本当の幸せ」だと思いました。自分を中心にしてしまうと、そのせいで幸せがくずれてしまうかもしれないので、気を付けなければならないと思います。

## ★9月15日(金)「知的障がいについて学ぶ」 「やさしさの輪をひろげよう」講演会

障がいをもつ方がどんな困り感をもっているのか、映像を見たり、実際に軍手をつけて折り紙を折ったりすることで考えました。それぞれが、心に響くものがあつたようで、いろいろな感想をもつことができました。

👉授業を終えて

- ・ぼくは、困っている人や、それを助けてあげる人が世の中にはたくさんいることが分かりました。  
「きれいな子 きっと誰かの だいじな子」という詩から、嫌いな人も大事にしている人がいるのだから、大事にしている人の気持ちを考えて、嫌いな人とも向き合おうと思いました。
- ・ぼくは、軍手をつけてつるを折ると、やりにくくて、障がいのある人はこんな感じだと分かりました。相手のペースで教えてあげると、友だちもつるをきれいに折ることができたので、積極的に友だちや困っている人の手伝いをしようと思いました。  
(児童の感想より)

## ○福祉について学ぶ 講話・体験



視覚障がいについて学ぶ 講話

## 『介助犬について学ぶ』

介助犬のサスケがすごくお利口で、びっくりした。お仕事が楽しそうだな。



障害をもった人たちの話を直接聞くことで、障害についてや生活の中の工夫についてくわしく知り、自分たち健常者にどんな願いをもっているかを教えてもらう機会となった。また、そこからは自分には何ができるかを考えることができた。

# 体験する

体験を通して学んだことは心に残ります。

相手の立場を体験することで自分にできることを学びました。

## ◎車いす体験と講演会

車いす体験を通して、体が不自由な人の気持ちや自分にできることを考えました。午後からの講演会では、「人はすごい力を持っている。自分を信じて自分だけの人生を歩んで欲しい。」という素敵なメッセージをいただきました。



## 3 障がい者福祉について

### 点字について学ぶ講話、体験

### 手話について学ぶ講話、体験



疑似体験として「アイマスク」「イヤーマップル」を使って、視覚障がい、聴覚障がいの体験を行った。

視覚障がい体験として「ブラインドウォーク」を行い、視覚障がいの大変さを体験することができた。また、聴覚障がい体験として、聴覚に障がいがある人に話したいことを伝えることの大変さを体験することができた。



誰にでもやさしい街を考えるために、商業施設・公共施設でのバリアフリー体験を行いました。疑似体験を行った視覚・聴覚・身体障がい者、高齢者、子供などそれぞれの視点で施設内のバリアフリー設備や案内表示などを見学し、多くの気づきがありました。



バリアフリー見付け

# 地域とのふれあい

誰もが安心して暮らすことのできるふくしのまちづくりには地域住民とのつながりが大切です。さまざまな形で地域住民とふれあうことで生徒の皆さんと地域住民のつながりができました。

## ○地域ボランティアとの活動 ～茶摘み～



80年近い伝統がある本校の「茶摘み」は、長年にわたって、地域ボランティアの方が茶の木の世話をしているからこそできる活動です。今年度は、5年生児童が地域ボランティアの方に苗木の植え方を教えていただきながら、一緒に新しい木を植樹しました。子どもたちは地域の伝統や文化を引継ぎ、地域社会の一端を担う気持ちを育むことができました。

【茶摘み体験後の児童の感想(抜粋)】長い伝統のある茶摘みができてよかったです。お茶の木を植えてくれた昔の人に感謝です。これからもずっと続けていけるといいと思いました。

## ○みどりのまちづくり会との交流

<目的>

- ・地域に暮らす人たちとともに活動をする中で、地域の方に、感謝の気持ちや憧れをもち、自らもよりよく生きようとする意識や態度を育てる。
- ・地域の団体「みどりのまちづくり会」と連携して野菜作りを行い、花壇づくりのボランティア活動を進んで行おうとする態度を養う。



地域講師の方とお話

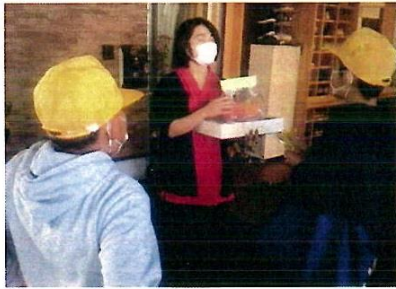


種の植え方の説明



児童は、地域のボランティア講師の方と話をしたり、野菜の育て方等を教えていただいたりすることで、地域の方の豊富な経験・知識に触れることができた。体験で学んだことを交流したり広めたりすることで、学びをより確かにし、様々な人と共により良く生きていこうとする意識や態度を育てることができた。子どもたちは学習したことを、学習プリントにまとめた仲間と交流し、また地域の方と触れ合いその経験・知識を実感することができた。

**リョクエンナーレ (地域ボランティアハウス「ふらっと」)  
高齢者福祉施設「ラベンダー」との交流**



**リョクエンナーレ**は、ボランティアハウスの方を講師に招いて、「光る風鈴」に取り組み、鶺鴒宿等に展示した。また特別支援学級と高齢者福祉施設「ラベンダー」との交流も、施設を訪問し、贈り物やメッセージを渡すことで、間接的に交流を行うことができた。

**活動2 ニッケデイサービスセンターとの交流**

日時：令和5年10月18日（水）

対象：3年生福祉科 ケアワーカーフィールド 24名

ニッケふれあいセンターかかみ野の利用者さんをお招きし、文化発表会を一緒に見て回りレクリエーション等に参加していただいた。交流での実践的な学びだけでなく、生活支援技術を中心とした高齢者との関わり方等の事前学習を通して福祉に対する学びを深めることができた。

【交流の様子①】



【交流の様子②】



【交流の様子③】



**活動3 鶺鴒西保育所との交流**

日時：令和6年1月18日（木）

対象：3年生福祉科 子ども福祉フィールド 9名

子ども福祉フィールドで学習した内容を生かして、隣接する鶺鴒西保育所年長組園児33名と保育士5名、生徒保護者を招待し保育技術発表会を行った。

実際に園児の前で発表することで、直接反応を感じながら行うことができ、3年間の学びの集大成とすることができた。

【人形劇の様子】



【パネルシアターの様子】



【ハンドベル演奏の様子】



# つながる

施設や高齢者宅への訪問、地域住民を招く会等を通して地域とのつながりができました。助成金を活用したプレゼントを渡し、思いやりの心、感謝の心が育まれました。

## 1. 福祉施設との交流

今年度も1年生が、総合学習において「福祉」を学び、近隣の福祉施設との交流を行った。実際に訪問して交流するにはインフルエンザの流行もあったため、メッセージカードや寄せ植えをつくり、それを福祉施設に届ける間接的な交流となった。お年寄りに元気になっていただきたいという思いをこめて寄せ植えを作ったり、カードを作ったり、メッセージを添えたりすることを通して、福祉への関心を高めることができた。



- ◎花を渡したら、重いはずなのに笑顔で嬉しそうにずっと持っていてくださったので、とても温かい気持ちになりました。良い経験になりました。(1年生 生徒)
- ◎福祉施設の方々に花とメッセージカードを届けたら、とても喜んでいただいたので嬉しかったです。今までそうした経験がなかったので、もっと色々な関わりをしたいと思いました。(1年生 生徒)
- ◎施設のみなさんに拍手で温かく迎えていただきました。自分は花を届けることができとても良かったと思っています。今回の経験を生かして、お年寄りの方や、いろいろな人に対してもっと親切になろうと感じました。(1年生 生徒)

## ■ 地域の学校教育支援者への御礼のプレゼント

本校は、人的環境に恵まれ、地域の方々から手厚い支援をいただくことのできる学校である。お世話になっている地域の方々に手作りのメダルや鉢花などを贈り、日頃の協力への感謝の気持ちを伝えることができた。



▲「通学路見まもり隊感謝の会」で、日頃の感謝をこめて

▲低学年児童手作りのメダル

## 令和5年度 フラワーエンジェルについて

緑陽中の伝統的な生徒会行事である『フラワーエンジェル』は毎年、校区内に住んでみえる高齢者の方を訪問し、ふれあいを深めてきている。高齢者との絆をより深めていく為に、以下のように計画する。

### 1 活動のねらい（福祉・ボランティア教育のため）

地域で暮らす高齢者の方との手紙のやりとりなどを通して、高齢者に対する理解を深め、高齢者を大切にしようとする気持ちを育てる。

### 2 活動内容

○校区内に住んでみえる高齢者の方と手紙をやりとりする。

- ・活動1…フラワーエンジェルに参加されるかどうかをお尋ねする往復はがきを郵送する。
- ・活動2…活動に参加される高齢者の家を訪問し、お手紙を手渡しする。
- ・活動3…11月に12月に行う合唱交流会の案内をポストインする。
- ・活動4…12月末にメッセージと花を持って高齢者宅を訪問し手渡しする。

### 3 全体指導計画

	準備・指導・活動内容
6月	・昨年度の名簿をもとに、校区内に住む高齢者の名簿を確認する。往復はがきに応援のメッセージ、活動に参加されるかを尋ねる文を添えて投函する。（往復はがきにし、返信をして頂けるようにする。）
7月	・参加者名簿を作成し、担当する高齢者のお宅を決める。・参加される方へのメッセージを作成し、高齢者宅を訪問する。
11月	・11月中に、12月に行う合唱交流会の案内をポストインする。
12月	・メッセージカードの作成をする。 ・12月に高齢者宅を訪問し、メッセージカードと鉢花を手渡しする。



### 1. 地域の方に鉢植えのプレゼント

12月、校区内にお住いの高齢者の方々のお宅に訪問し、花の鉢植えをプレゼントする取組を実施しました。地域の一員として貢献したいと、27名の生徒が参加し、日ごろの感謝の気持ちや、身体を大切にしてほしいという願いを込めた手紙を添えて、鉢植えを手渡しました。

